

文献調査における種数

調査区分	愛子東方法書における 文献調査で確認された ランクA以上			愛子東方法書における 文献調査で確認された ランクC以上		
植物	19 目	26 科	45 種	36 目	82 科	262 種
哺乳類	0 目	0 科	0 種	4 目	7 科	17 種
鳥類	9 目	13 科	15 種	15 目	30 科	69 種
爬虫類	1 目	4 科	4 種	1 目	5 科	9 種
両生類	2 目	3 科	7 種	2 目	5 科	13 種
昆虫類	7 目	18 科	23 種	8 目	36 科	61 種
魚類	4 目	4 科	8 種	7 目	9 科	15 種
合計	42 目	68 科	102 種	73 目	174 科	446 種

隣接する「愛子地区」の現地調査における確認種数

調査区分	隣接する愛子地区における 現地調査で確認された ランクA以上		
植物	8 目	9 科	9 種
哺乳類	1 目	1 科	2 種
鳥類	5 目	10 科	11 種
爬虫類	1 目	1 科	1 種
両生類	2 目	2 科	3 種
昆虫類	4 目	8 科	8 種
魚類	3 目	4 科	4 種
底生動物	4 目	4 科	4 種
合計	28 目	39 科	42 種

○仙台市内環境影響評価 動植物調査（現地調査）実施状況

条例対象事業	ランク
ヨドバシ仙台第1ビル計画に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
（仮称）泉パークタウン第6住区開発計画に係る環境影響評価の実施状況	A以上
仙台貨物ターミナル駅移転計画に係る環境影響評価の実施状況	A以上
プロロジスパーク仙台泉2プロジェクトに係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
雨宮キャンパス跡地利用計画に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
仙台港バイオマスパワー発電所建設計画に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
杜の都バイオマス発電事業に係る環境影響評価の実施状況	C以上
東北学院大学五橋キャンパス整備計画に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
仙台市岩切山崎今市東土地区画整理事業に係る環境影響評価の実施状況	A以上
仙台市愛子土地区画整理事業に係る環境影響評価の実施状況	A以上
宮城丸森幹線新設事業に係る環境影響評価の実施状況	A以上
鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備事業に係る環境影響評価の実施状況	減少種と表記
（仮称）仙台芋沢太陽光発電事業に係る環境影響評価の実施状況	A以上
仙台市役所本庁舎建替事業に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし
（仮称）ニトリ仙台DC新築工事に係る環境影響評価の実施状況	減少種と表記
（仮称）DPL仙台長町Ⅱ計画に係る環境影響評価の実施状況	公表終了
（仮称）青野木産業廃棄物最終処分場増設事業（第5期）に係る環境影響評価の実施状況	A以上
（仮称）岩切物流施設新築計画に係る環境影響評価の実施状況	現地調査なし

(修正前)

(2)動物

1)注目すべき動物種の状況

仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや、特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ホンダザル、ホンドキツネ、ホンダタヌキ、ニッコウムササビ、ニホンリスなどの哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などが一因と考えられるツキノワグマ、カモシカの低地丘陵への分布拡大が確認されている。鳥類では、オオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラなどの森林性の種が多く分布し、絶滅が危惧されているイヌワシやクマタカの生息も確認されている。爬虫類では、ニホンマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では、山地の溪流にキタオウシュウサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では、山地の溪流にニッコウイワナ、ヤマメ、カジカ等が生息する。一方、丘陵地の池沼等にはオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルといった移入種が定着しており、在来の種の生息が脅かされている。昆虫類では、オニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類などの森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石と言われるヒメギフチョウなども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボなどのトンボ類も多く生息している。

市街地では、人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、ホンダタヌキ、ホンダイタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなど多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある。

調査範囲内における注目すべき動物種の状況は、「令和3年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（令和4年2月、仙台市）において、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、対象事業計画地が「西部丘陵地・田園地域」及び「市街地地域」の境界付近に位置していることから、該当する地域区分である「西部丘陵地・田園地域」及び「市街地地域」（表 3.1-51（P.3.1-61）参照）における減少種（EX～C：表 3.1-52（P.3.1-62）参照）を「注目すべき動物種」として抽出した。

調査範囲における注目すべき動物種は表 3.1-59～表 3.1-63 に示すとおりであり、哺乳類 8 科 20 種、鳥類 31 科 71 種、爬虫類 5 科 9 種、両生類 6 科 14 種、魚類 11 科 19 種、昆虫類 39 科 73 種であった。

(修正後)

(2)動物

1)注目すべき動物種の状況

仙台市の山地から丘陵地に広がる森林域には本州最大の哺乳類であるツキノワグマや、特別天然記念物であるカモシカをはじめ、ヤマネ、ニホンザル、キツネ、タヌキ、ムササビ、ニホンリスなどの哺乳類が生息している。近年、二次林の放置などが一因と考えられるツキノワグマ、カモシカの低地丘陵への分布拡大が確認されている。鳥類では、オオルリ、ゴジュウカラ、キビタキ、アカゲラなどの森林性の種が多く分布し、絶滅が危惧されているイヌワシやクマタカの生息も確認されている。爬虫類では、ニホンマムシやジムグリのほか、自然度が高い林床を好むタカチホヘビや比較的珍しいシロマダラなども生息している。両生類では、山地の溪流にキタオウシュウサンショウウオが生息し、トウホクサンショウウオは丘陵地の沢などに広く生息している。また、池沼の縁の樹木の枝に卵塊を産み付けるモリアオガエルや清流の環境を指標するカジカガエルも生息している。魚類では、山地の溪流にニッコウイワナ、ヤマメ、カジカ等が生息する。一方、丘陵地の池沼等にはオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルといった移入種が定着しており、在来の種の生息が脅かされている。昆虫類では、オニクワガタ、カミキリムシ類、ミドリシジミ類などの森林性の昆虫類が多数生息し、丘陵地では生きた化石と言われるヒメギフチョウ本州亜種なども生息している。また、泉ヶ岳付近は山地性チョウ類の主要な生息地になっている。丘陵地の湿地ではオゼイトトンボなどのトンボ類も多く生息している。

市街地では、人の生活空間の拡大や各種開発事業により、動物の良好な生息環境が減少しているが、公園や残された緑地等が、タヌキ、ニホンイタチ、カワセミ、アオダイショウ、ミヤマクワガタなど多くの動物にとって貴重な生息場所となっており、これらの緑地を保全するとともに、周囲の丘陵地、田園地域との連続性に配慮した緑の創出を進める必要がある。

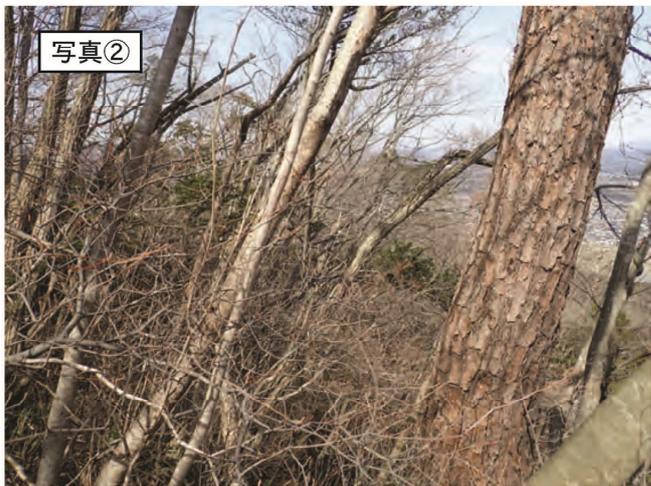
調査範囲内における注目すべき動物種の状況は、「令和3年度 仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（令和4年2月、仙台市）において、「保全上重要な種」に挙げられている種のうち、対象事業計画地が「西部丘陵地・田園地域」及び「市街地地域」の境界付近に位置していることから、該当する地域区分である「西部丘陵地・田園地域」及び「市街地地域」（表3.1-51（P.3.1-61）参照）における減少種（EX～C：表3.1-52（P.3.1-62）参照）を「注目すべき動物種」として抽出した。

調査範囲における注目すべき動物種は表3.1-59～表3.1-63に示すとおりであり、哺乳類8科20種、鳥類31科71種、爬虫類5科9種、両生類6科14種、魚類11科19種、昆虫類39科73種であった。

写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

